



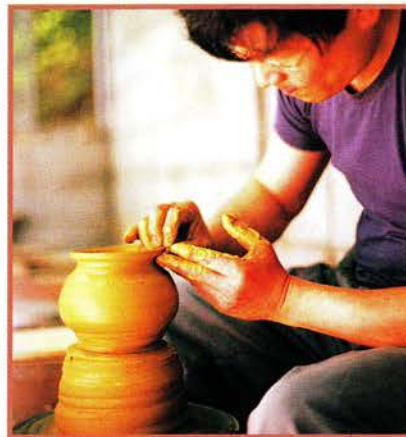
Opera

オペラ

レッツ・クリエイト

簡単・手軽だけれど奥が深い

ブームの陶芸を
もっと知りたい



ユニークな創作活動で知られる陶芸家の豊田木元さんを、兵庫県西宮市郊外の工房にたずねた



私の原点は

路上パフォーマンス



アフリカの大地で
知り得た
作業療法への期待



青年海外協力隊

創刊企画 スペシャル対談 石井めぐみさんを迎えて

「障害児とともに成長する家族」



長男・優斗君の子育てと仕事を両立させた石井めぐみさんが、寺山久美子会長と語りあった

- 誕生、そして訓練の日々
- 障害の受容へ
- 障害は恥ずかしくない
- 一家にひとり障害者へ

チベット仏教医学と
精神科作業療法

小田 晋

～シリーズ～

- 生活支援のアイデア
- いっぱいの福祉用具
- 片手でやってみよう

INTERVIEW

ス ペ シ ャ ル
対 談



障害児とともに 成長する家族

重い脳障害をかかえた長男・優斗君ゆうとの子育てと女優業を両立させた石井めぐみさんが、寺山久美子（日本作業療法士協会会長・東京都立保健科学大学作業療法学科教授）と障害や家族のあり方について語りあった。

取材協力：多摩丘陵病院

誕生、そして訓練の日々

寺山 ● まず、待望の赤ちゃんが産まれた時の状況からお話しいただけますか。

石井 ● 結婚が二十過ぎていましたので、私も主人も一刻も早く赤ちゃんが欲しかったです。妊娠がわかった時は赤ちゃんで一万歳、万歳といった感じでした。妊婦検診には主人が毎回、ビデオとカメラをもってついてきて、そのあまりの熱意にお医者さんも診察室に入れてくれたほどです。

寺山 ● ご主人がテレビ局のディレクターということもあるんでしょうね。

石井 ● ええ、人一倍好奇心が強いみたいです。妊娠中の赤ちゃんはとても元気です。先生たちもびびりするくらい成長ぶりでした。だから出産に事故があるなんてまったく考えていなかったんです。あとで聞いた話だと、計画出産では赤ちゃんにその準備が出来ていないとパニックを起こすらしいですね。出産の一週間後、先生になんとか命は助かったとしても重い障害が残りますよ、といわれた時はいったい何をいつてるんだろうという感じでしたね。

障害ということがとっさに理解できなくて、なにを想像していいのかわからないくらい、それまで障害が身近になかったんです。なんとかなるはずだと、子どもの障害を受け入れていなかったんです。障害に関する本を何十冊と買ってきて読んだなか、ドーマン先生の「親こそ最良の医師」という本に衝撃を受

けて、親の努力で子どもの障害を治せるんだ。これはなんとかして自分の手で子どもを治してあげなければ、と思いついてしまったんです。

出来ることはなんでもやってみよう、二カ月目に人工呼吸器が取れた段階でむりやり子どもを連れて帰って、それから日本中、治療訓練を受けられるところはどこでも、九州大学から神戸の研究所、大阪大学と連れてまわったんです。なんにも出来ない赤ちゃんですから、健常の子どもとどこが違うのか、親には障害の実感がないんですよ。一週間の訓練スケジュールをつくって、寝ている間も手や背中を動かしたりしていました。

それだけ訓練をやっていると、出来るようになることって結構あるんです。九割以上の大脳皮質が死んでいるから無理ですよ、と先生にはいわれていたんですけど。四カ月の時DQ(発達指数)を測ったら、平均百のところ百九十もあつたんですよ。訓練やり過ぎちゃったと思つて、なんだ、障害見つけていわれても訓練やれば出来るじゃない、とますます拍車がかかつてしまつて、仕事も辞めて命がけのリハビリでした。

寺山 ● 石井さんの場合は、エネルギー全開で立ち向かわれましたが、障害児が生まれると親御さんはそうした努力奮闘、無我夢中の時期を過ごしてきますね。

障害の受容へ

寺山 ● ご主人は忙しいお仕事ですが、

協力してもらえましたか？

石井 ● ええ、私がいったんやりはじめたら止まらないことを知っていますから、例えば全国どこの病院へも連れていってくれましたね。ところが子どもが一歳過ぎたばかりの時に、ものすごく体調が悪くなつちやうたんですよ。神戸の研究所に新幹線で通いながら、ドーマン法という緊張して体が硬くなる私の子どもなどには、ちよつと過酷な訓練をやっていたんです。

呼吸が出来ないくらいひどい状態になつて、あわてて病院に駆け込んだところ、先生に赤ちゃんになにかストレスがかかっているようなことないですかと聞かれて、それでようやく目が覚めたんです。このまま続けていたら死んじゃうかもしれないと思つた時、気がついたので。この子はきつい訓練をやるために生まれてきたんじゃないつて。親が障害をな

くして健常児にしくちや、と思いついていたんですけど、べつに健常児になるために生まれてきたんじゃない。障害をもつて生まれてきたということは、この子には障害をもつて生きていることに意味があるんだ、ということに気がついたので。

寺山 ● それに気づいたのは、きっとお子さんが悪くなることでお母さんにサインを送つたんですね。

石井 ● そうですね。悪くなることで私に抗議したんです。苦しい思いをして生まれてきて、本当だったら退院してようやく楽しい生活が始まるわけなのに、

帰ったその日から訓練訓練ですからね。彼にとつては楽しい毎日なんてまったくなかったんですよ。人間つていうのは生きてるかぎり、生きてることを楽しまなくちやいけないつて思つたんです。苦しいばかりの毎日で一生を終えてしまつたらとんでもないことです。

どんなに重い障害をかかえていても、なにか生きていること、生活を楽しむことは出来るはずなんだから、逆に二分でも一秒でも楽しい時間をつくらうというふうに考え方が変わったんです。その時からそれまで強引にやっていた訓練を整理して、生きるために必要な訓練、生活するうえで楽になるための訓練はもちろん続けたんですけど、それ以外の障害を治すための訓練は全部やめたんです。



それによつて優斗自身も楽になつたと思うんですけど、私自身もたぶん一番楽になつたんですね。それまでは障害を治さなくちや治さなくちやつて、母親はどうしても障害をもつた子どもを産んでしまつと自分の責任のような気がして、



障害が治るまでは一生負い目を感じて動けなくなってしまうんですね。

寺山 ● そういう転換って、ものすごく大事ですよ。障害を受け入れて、豊かな心でゆとりをもってお子さんと付き合っていくようになる、そこにいたるまでの時間が大変ですけど。おっしゃるようなことは、障害のあるお子さんをもつたお母さんたちは、大なり小なり乗り越えてこられるんだと思いますね。

石井 ● まず障害を受け入れる、受容する、そこからちゃんとした生活が始まるってことが、ようやくわかったんです。それまでは子どもに障害があるとわかっただけでも認めていない、受け入れていないんですよ。障害があるうちは自分の子どもじゃないんです。でも、それじゃだめなんです。障害をもつていてもいいから楽しい生活をしよう、と考え方が変わった時点ではじめてちゃんと自分の子どもになったんです。

その日からは、まず生きていることを大事にする。子どもが楽しいだろうなと思うようなことを、親も一緒に楽しんでやるように切り換えたんです。生活を楽しむようになってからは、子どもの体調もめきめき良くなっていました。

うちの子の場合は強直性の麻痺があったので、緊張があるとうどん体が硬くなって、呼吸も悪くなってしまふ。訓練も大切なんですけど、生活を楽しむとか、遊園地に行つて楽しいものを見る、聞く、遊ぶということ、緊張がとれれば体がやわらかくなって、呼吸もよくなつてというふうになるんです。専門の訓練も必要ですけど、心のケアから入つて体をよくしていく方法もあるんだな、ということに気がついたので。

寺山 ● 「障害があるうちは自分の子どもじゃない」という無意識のうちの固定観念から早いうちに脱出できたのは、さすが石井さんですね。見事でした。

障害は恥ずかしくない

石井 ● 障害児のためのセンターに通うようになってからは、同じような立場のお母さんたちと友だちになりました。健常児のお母さんとだと、わかっただけもつい比較してしまつて、おたがいが気まぐずなつていたんです。それで近所にも溶け込めなくて、でもはじめて子どもに障害を自由に口に出せる環境に出会つて、すっかり気が軽くなつたんです。すると、おたがいの病氣自慢みたいなこと

が始まるんですよ。うちの子なんかこんなに重いの上、口ではいいながら、でもこんなに元

気なの、かわいいのという気持ちに逆になつてくるんですね。

寺山 ● 島田療育センターに通われたということですが、当時、重い障害をもつたお子さんを月曜から金曜まで、日中五時間も預かつてくれる施設はほかになかったんですね。すると、二十四時間お子さんにつきっきりの状態から、少し自分の時間をつくれるようになったわけですか。

石井 ● そうなんです。シヨッピングしたり、お母さんたちとカラオケにいたり、すると五時間もあれば仕事も少しずつ始められるかなという気持ちになつてきたんです。

寺山 ● 学生時代から女優の仕事をしてたそうですね。

石井 ● ええ、学生の自主映画のはしりの頃で、シネマ研究会に入つてたんです。二年の時にはテレビのレギュラーの仕事をやつてまして、本当は学校の先生になりたかったんですけど、忙しくて就職が取れなかつたんです。でも、テレビの世界に入った当時、ドラマでやらせていただくと役は圧倒的に教師が多くて、お芝居でも少しは希望がかなつたかなと思つています。

寺山 ● 二年前には「ゆっぴいのばんそ



うこ
う」とい
う番組
に出られ
ましたよね。

石井 ● え
え。優斗が
アデノイドを
腫らして手術しな
ければ危ないとい
う時、考えたんです。この

子が障害をもつて生まれてきたのにはなにか大きな意味があるはずだ。私はそのおかげで障害のこと、障害者のこと、いろんなことを知ることが出来たんです。私はテレビの仕事をしていて、たくさんの人たちにそのことを伝えられる立場にいる。そこでテレビで優斗のことを見てもらつて、それを通じて障害のこと、障害者のこと、福祉のことを身近に感じてもらいたい、知ってもらいたいという思いで、実は私が企画して「ゆっぴいのばんそうこう」という番組をつくつたんです。

障害児の母のイメージがついて女優としてやっていけなくなるとか、障害者を見世物にしてとか、最初は主人にも反対されました。でも私は自分の子どもが障害をもつて生まれて、こんなにか

わいいんだから見せてもいいじゃない。それをきつかけに障害者を身近に感じてもらえれば、そこから障害に対する理解を広げてもらうことにきつとつながっていくはずだと思っただけです。

実は、ナレーションをお願いした明石家さんまさんは、趣旨に賛同してくれただうえ、ノーギャラで引き受けてくれたんですよ。テレビ局の理解やスポンサー関係で、制作から放映まで三年もかかりましたけど。

寺山 ● あれはすごくインパクトのあるいい番組でしたね。ひょうきん族に出ていたあのお姉さんが障害児の優斗君のお母さんで、いろいろな切り口から障害を描いていて、私どもの学生の教材としてもすごく価値がありました。よくやつていただいたと本当に感謝しているんですよ。視聴者からの反響も大きかったですね。

石井 ● ええ。おかげさまで二年前の放映から十万通、大勢の方から今でもお手紙をいただいています。

寺山 ● できましたら、「ゆっぴいのばんそうこうPART2」をおねがいます。

一家にひとり障害者

寺山 ● ところで、間もなく二人目のお子さんが誕生しましたね。

石井 ● 優斗と家にふたりしているとシンとしてしまうんですね。楽しい生活には声が届くと思ひまして、それで

二人目の子どもを産んだんです。七月七日の七夕が誕生日、わが家にとっては希望の星だったので、瑠星(りゅうせい)と名づけました。

寺山 ● 生まれた時から障害をもったお兄ちゃんがいる、というのは弟さんにとつてどうですか。

石井 ● 生まれた時から障害者が身近にいると、やさしさとか、いろんなことをびつくりするくらい自然に学び取つてくれるんです。逆に身近に障害者がいないと、そういうやさしさとかを学ぶ機会つてなかなかないですよ。それ私たちが障害児をもつ親は、いい人になるためには「一家にひとり障害者」つて提唱しているんですよ。

瑠星が二歳の時にオモチャ屋さんに行った時、最初に口にしたのが「ゆっぴいにはどれがいいかな」という言葉なんです。障害者には合うものと合わないものがあるつていうことを、ちゃんと理解してらんです。自分のことより人のことをさきに考えているつてこともびつくりしました。気をつけて聞いていると、「ゆっぴいはこれが出来ないから、ぼくがやるね」といつたりすることがとても多いんですよ。

私が二度も教えていないのに、障害者が出来ないことは代わつてやつてあげればいいんだ、自分が補つてあげられればそれで二人でひとつでいいんだ、ということを自然に学び取つたんです。家族にひとり障害者がいると助け合わなければ生活出来ないんで、自分がなにをしなければいけないかを自然に学び取つてい

くんですね。

寺山 ● 私どもが行っている作業療法も生活のなかで家族の協力があつてはじめてうまくいくものなんですね。女性には期待される部分が多いと思ひますけど、ご自身の経験からいかがですか。

石井 ● 母親というのは自分の子どもが治るまで、自分の生活を捨てて当たり前と思つてしまいがちなんですけど、一人ひとりが自分の生活、人生を大切にしていかなきゃ、家族みんなが幸せにはなれないんです。自分の人生を楽しむつてほしいと思ひます。

寺山 ● 石井さんはこれまで多くの保健医療職の人たちとの付き合いがあつたと思うんですけど、保健医療職の卵を育てている立場から、そういう人たちへの要望をお聞きしたいんですが。

石井 ● いま、作業、理学、言語、心理とか療法士も細分化されていきますけど、特に小さい子どもの場合、一人でトータル

に診てもらえる技術職の方がいたらいいなと思ひます。障害はさまざま形で現れたりするので、いろいろなケースに対応できる人がいたら、子どもも親も助かると思ひます。

寺山 ● 私も「障害者や障害児を全体的にとらえられるハートと技・知識をもつ療法士」をひとりでも多く育てたいと思ひます。すてきな女性、ママ、女優さん、奥さんとして今後も活躍ください。本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

●この対談は平成十二年七月八日に行われたものです。優斗君は、平成十二年九月九日、永眠されました。心よりご冥福をお祈りいたします。





海外青年協力隊
協



米崎 二郎さん

アフリカの大地で知り得た 作業療法への期待

社会福祉法人 大阪市障害更生文化協会
大阪市援助技術研究室 米崎二郎

私は、一九八六年四月～一九八九年三月までの三年間、国際協力事業団の青年海外協力隊に参加し、東アフリカのマラウイ共和国に派遣されました。赴任先は、国立カムズ身体障害者職業リハビリテーションセンターで職業前評価と訓練を主に担当し、約半年を経過した頃にクイーンエリザベス・セントラルホスピタル(国立総合病院)、チエッシャーホーム(海外援助による小児通所訓練機関)、ゾンバ・ホスピタル(国立精神病院)にも定期的な支援を行うようになりました。それは、まずこの国には海外留学で学んで免許を取得した作業療法士が国立精神病院に一名しかおらず、身体障害及び小児部門には一名もいなかったことが大きな理由です。各機関を回り実際の支援を行うとともに、作業療法についての普及活動もあわせて行いました。そのとき、多大な協力をしてくれたのが、ヨーロッパを中心とする理学療法士ボランティア達約十数名とチエッシャーホームの所長である

Mr. Lee Kyoungh Hwa(理学療法士)、ご主人が獣医でたまたまこの国に来ており時々手伝いに来ている Mrs. Urs Poranen(元作業療法士)でした。ともに技術の交流を図り、朝早くから晩遅くまで各地をクリニックで回り、医療相談や義肢・装具の適合相談など支援サービスを行い、国に提出する報告書及び交渉ごとのための英文添削を手伝ってくれました。

ところで、このマウライ共和国について少しお話ししますと、アフリカ大陸の東部・内陸に位置し、国の二分の一を湖が占めています。国土全部でおおよそ北海道の三分の二ぐらいでしょうか。

私は、国立カムズ身体障害者職業リハビリテーションセンターに勤務しましたが、特に障害の内容で多かったのが、ポリオ、切断、火傷などでした。その中でも驚いたのは、切断の理由がワニやカバに噛まれたとか、野生の象に踏まれて複雑骨折になったとかで治療手段がなく、やむなく切断したもの、主食であるム

シマ(粉末状にしたトウモロコシをお湯でとかしてお餅状にしたもの)を調理する際にお湯をこぼして火傷になったものなど、我が国では経験のないことばかりでした。

しかし、赴任直後に強く感じたことは、我が国でいう障害者のイメージが存在しなかったことです。障害があっても、実力さえあれば雇用が多くなされておき、まちを歩いても、杖をついた人、四つん這いで這っている人、人に手を引いてもらいながら楽しそうに歩いている視覚障害の人など数多くみかけます。また、さすが音楽のルーツというところもあつて、夜になれば、いたるところで太鼓の音と



ともに朝方までダンスを踊っており、その中には、もちろんさまざまな障害のある人たちも、当たり前のように参加していました。中には、女の人(ちなみ
にこの国では、女性はお尻が大きい人が大
大です)に声をかけナンパしている光景
を多く見かけます。ある人に聞いたと
ころ、障害のある人は、神の子と言
われ、生活力さえある人は一番もてる
のだそうです。それまで、支援しながら
どこかで偏見の目でみていた自分が情
けなく、恥ずかしく思えました。そして
、この国において、作業療法の役割があ
るのかどうか非常に不安でした。とにか
く、そのような不安の中で作業療法課を
開設しましたが、当初何か手をつけ
てよいものかどうかわかりません
でした。

ある夜、職業リハビリテーションセンタ
ーの訓練生とお酒を飲みながら話をし
た時、「パンゴノ、パンゴノ」あわてても何
もいいことはない、自然にまかせればき
つといいことがある。だから、心配しない
でのんびりしましょう。」と言われました。
この時は、正直言つてどこか腹をたて、「何
ていいかげんな国だ。だからこの国は進
歩しないのだ。」と批判していました。
しかし、その後この言葉の意味をここ
から素敵なものだ思わせてくれたこと
が二つありました。

一つは、先天性奇形で両手両足のない
三歳児のグステイノ君との出会いです。
療法士の仲間達から彼を何とか助け
て欲しいと依頼され担当することにな

りましたが、母親は麻薬中毒で、本人
も肌の色の違う私を見てとにかく泣
き叫んでばかりでした。また、最初出
会った時は、普段地面に寝かされてい
ることが多く、母親の管理が悪く不衛生な
状態でした。



特に、数カ所ブチフライ(ハエが体内
に卵を産み付ける)にやられており、
体の中から幼虫が出てきて化膿してい
ました。私は二カ所だけ太ももの内側
にやられたことがありますが、幼虫が
出てきたときはとても痛く、気持ち悪
いものです。彼はその痛みからも毎日
泣き叫んでいました。まず、出てくる幼
虫を二匹ずつ取り除き、化膿した箇所
を消毒し、毎日きれいな水道水で体を
洗ってあげることしかできません。
そのうち、傷も治り母親の薬物依存へ
の治療、子育ての教育、そして本人の自
助具使用訓練をすべて担うこととなり
ました。その製作のための材料は一切なく、
街頭で外国人観光客への資金援助及び
物品の寄付を募って得なければなりま
せんでした。とにかく、自分にできるこ
とを精一杯行うだけでいい。彼は、次第
に私にも慣れてきて、製作した自助具

も使用するようになり、寝転びながら
口でボールを操作しながらサッカーゲ
ームをしたりもするようになりました。
帰国も間近になり、小学校への入学の
許可だけ何とか獲得でき、お別れが近
づいた時、彼が小さな声で「ジヤバニ・バン
ボ」日本のお父さん」と言ってくれました。
私は、それまで作業療法士として何を
なすべきかということばかり自分に問
いかけてきましたが、作業療法という
支援技術をする一人の人間であること
を忘れていたような気がしました。人
への関心と、人のくらしを探究するこ
とこそ作業療法であることをこの時初
めて知ったような気がします。

もう一つは、帰国する際に見送りに来
てくれたMr.Mata(作業療法助手と
して働いてくれた人)の「また、いつでも
帰ってきてください。この国は、二〇〇年
たつても何も変わらず、あなたが知って
いるままのマラウイです。それが私達の
誇りです。」という言葉です。その時、
私が尊敬する亡きマザー・テレサが来
日時、言った言葉を思い出しました。「こ
の国は、多くの発展を遂げているが、ど
こか寂しく不幸な国のような気がし
ます。その理由は、人間が欲だけにと
らわれ人への無関心を引き起こしてい
ることです。どうか、もう一度優しい目
をもつて隣人を愛してください。」「福
祉には、妥協はありません。できる限り
のやさしさを与え続けてください。きつと、
あなた達自身をしあわせにすることに
しよう。」という言葉を…。

最近気になるのは、ここ数年の戦争
の犠牲となった多くの孤児達のことです。
戦争により受けた障害は、社会の産物
であり、国民すべての責任であることを
作業療法士として問いかけなければな
らないような気がします。私は、遠い将
来理解ある仲間達と孤児院を開いてい
るかもしれません。

私は今、大阪市援助技術研究所で理
解ある上司と同僚とともに、「障害を
どのように理解し解決していくのか」
の理論付け、その実践方法を日夜検討
しています。



すべての人が、平等な機会を得、
ひととして
「スピリチュアリティ」と
作業活動を通じて
得られるように…
そして幸せと得るように…





豊田木元さん
もくげん

陶芸家、豊田木元さんに聞く

簡単・手軽だけれど奥が深い ブームの陶芸をもっと知りたい

大学の作業療法学科でも教え、ユニークな創作活動で知られる陶芸家の豊田木元さんを、兵庫県西宮市郊外の工房にたずねた。大阪からJR福知山線で宝塚駅のつぎ、生瀬駅から歩いて二〇分ほどの緑濃い山ふところその工房はあった。



粘土と手が戯れる感じ

—ご自身の陶芸歴、それから教えるようになったきっかけは

略歴から話しますと、美大の彫刻科志望を陶芸に変えてから約三〇年。窯をつくって焼き始めてから二十五年ほど、十年ほど前から陶芸教室を開いています。昭和四八年頃でしたか。大阪の府立病院の精神科で陶芸教室を始めるから来ないかという話があつて、リハビリの「リ」

の字も知らない状態でしたが、患者さんと一緒に陶芸を始めたんです。医者が作業療法に理解のある人で、僕の知人がそこで絵を教えていたという縁でした。

—初心者にはどんな教え方を

こうしなさい、ああしなさいと教えるよりも、粘土をさわっているうちに手が勝手に動いて削っていくという感じで



すね。結果、お皿が出来たり、湯呑みが出来たり、なかには動物を作る人もいます。細かいことを教えるより、その人がもっているものを引き出してあげるという経験が、僕自身、非常に役立ちます。

もちろん、粘土で形を創るだけではなく、釉薬をかけ、絵付けをし、窯で焼いて仕上げるまでに二カ月位かかります。

創る、焼く、使う楽しみ

—陶芸のおもしろさは

粘土で形を創っているときに、一番おもしろいですね。絵や彫刻との違いがここにあります。手で直接さわることによって触覚が違ふし、とにかく削っている感じが違う。絵だと筆や鉛筆で間接的にしか対象にふれていないでしょう。

陶芸は直接土にふれるので、即感じ

が伝わります。だから、その人の性格や気分がそのまま出ます。落ち着いた人は落ち着いたように、イライラしているところが出てしまう。ところが、絵の具や筆が介在するといくとも構えがちです。創るときは感動と、焼いて仕上がったときの感動はまたべつです。熱による収縮などの変形を予想しながらも、体どんなものが出てくるんだらうと。間をあけることによる楽しみ、新たな感動があるものです。

さらに、自分で創ったものを使うという楽しみがあります。最近、教室には、こんな花瓶を創りたい、湯呑みを創りたいと具体的な希望をもった人が入つてこられます。徒弟制の昔と違って、修行に何年といったこともありませんね。



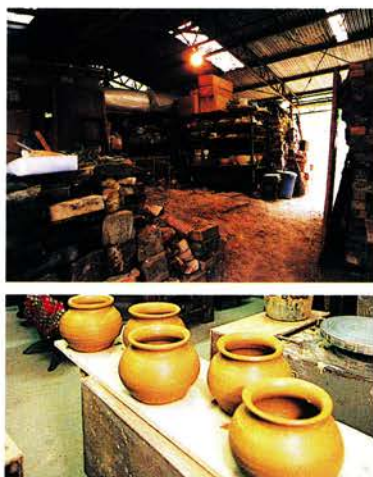
電気窯で焼ける時代

——最近窯も手軽だとか

ここでは電気窯と灯油と薪併用の窯の二つを使っています。それぞれ性質も焼

き上がりも違い、作品によって使い分けられます。このごろは小型の電気窯もあってマイコン制御ですから、時間と温度をセットすればあとは自動です。ほとんどご飯を炊くようなものです。

薪でなければダメという人もいますが、仕上がりを見てもまず区別がつかないんです。ただ、薪には薪の良さがある、焼き上がりの目的によって薪の方がいいという場合があります。電気でもガスでもそれぞれの良さがありません。



——土にもいろいろありますが

流通が発達した時代ですから、全国の産地の土が手に入ります。コーヒー豆みたいに目的に合わせてブレンドして使うことも出来ます。かといって、産地の意味がなくなるわけではありません。いまは土を見てどうこういう状況ではなく、唐津らしい、益子らしいといった、らしい雰囲気があればいいわけです。土と釉薬の成分と焼き方の違いですから、うちの窯でも益子風とか唐津風に焼くことは可能です。もちろん、薪でなければ出せない味というのがあります。

アマチュアの自由な発想が大切

——平面・立体の二面生をもつ

最初の創る目的によって、絵を描きたい人は焼きあがってから色絵を描いたり出来ます。ピカソやミロが陶芸に熱心だったように、平面をやっている人は立体をやりたいと思うわけです。きつと、後ろ側も見たいという思いがあるわけでしょう。立体と平面の両方からアプローチ出来るのも、陶芸のおもしろさですね。

——最近の陶芸の傾向は

いまはアマチュアもプロも多様化していて、たとえば主婦がペランダの電気釜で焼いた作品がグランプリを取ったりする時代です。去年、アメリカのワシントン州のある大学に教えに行つたとき、おもしろいなと思ったのは、みんな自由な発想で勝手に創ってるんですよ。そんなアマチュアの気持ちは大切にしていきたいですね。焼き物の世界では、六〇歳過ぎなければいいものは出来ないといわれます。

僕も、技術や形にこだわることなく自然に人間性が現れるような作品づくりを目標にしています。



おもしろいから没頭する



京都大学
医療技術短期大学部助教授
作業療法士 山根 寛さん

さまざま治療や訓練手段がありますが、作業療法の魅力というか、おもしろさは、「モノを創る」ことが人を夢中にさせる力です。上手、下手を超えて思わず没頭してしまう創ることの力です。作業療法



士が治療的な狙いをもって、も、それだけでは効果は生まれません。本来の治療

的な狙いとは少しずれていても、その人が興味を持ちおもしろいと感じて没頭するとき、意図した以上の治療効果がみられるのです。土にさわる。触覚を通して引き起こされるあの幼い日々の無心の感覚。それが作業療法の手段としての陶芸の魅力のひとつです。

SNAPSHOT

私の原点は 路上パフォーマンス

そもそもパントマイムとは

一般のイメージは、人形ぶりや形態模写ではないでしょうか。ストーリー性のあるものや道化のこっけいな仕草を連想する方もいるでしょう。もっと広い意味での身ぶりによる表現形式、言葉をそぎ、生の身体を立ち上げらせることでコミュニケーションするアート——この意味では欧米ではマイムといっています。私の場合、意味のない声や叫びも音として使っていますけど。

最初のきっかけは

私はアングラ演劇出身なんです。七〇年代初め、アジ演説風の言葉が氾濫するなか、米山マコさんのパントマイムを見て大ショックを受けて、私も始めようかな、と。障害者の人たちが自立生活運動をおこなすなど、高揚した時代でしたね。……

劇団時代のさまざまな武勇伝(?)は、紹介していると二冊の本になつてしまうので残念ながら割愛させていただきます。

他のパフォーマンス系との違いは

私のマイムは言葉に翻訳できる仕ぐさではなく、翻訳できないもの、体でしか表現できないものを目ざしています。基本は、マルセル・マルソーに代表される近代フランスで確立された身体トレーニングのメソッド。これに能・狂言や、舞踏、ダンスなどポータブル化した身体パフォーマンスを吸収して、私にしか出来ない表現を創造していくわけです。



河本のぞみさん

マイムパフォーマンスのときは「里見のぞみ」さん、作業療法士(OT)のときは本名の「河本のぞみ」さんと二つの名前を使い分ける。マイム歴20年を超える(OT歴とだいたい同じ)この道のベテランパフォーマンスだ。

近年の活動は

九二年、メキシコのストリートシアターフェスティバルに招待されたのがひとつの転機でした。ドラッグ、暴力、青少年問題など社会的なテーマを路上演劇で見せ、観客とともに考える、市民芸術に根ざしたプログラム。とかく個人的な空間に閉じこもりがちな日本人に対するアンチテーゼだったし、私自身、マイムを社会に開かれた回路へと展開させる最近の活動につながってきています。おかげで、海外のフェスティバルからの招待も増えていきます。

四年前に東京からここ(浜松)に移ってきてからは、一週間のうち二日半を地元の訪問看護ステーションでのOTの仕事にあてています。全国各地のワークショップに出かけていき、OTとかざらず一般の人たちにも身体の表現の可能性に気づいてもらう、身体全体を使ってコミュニケーションする楽しさを知ってもらう、といったOTとマイムが一緒になった活動に取り組んでいます。……

みなぎる元気を発散するその話しぶり。身体表現のあらゆる可能性に賭ける里見さんの活動は、大勢の人に、想像力と感受性ゆたかなコミュニケーションを実現させるはげましとなるだろう。

身体表現の可能性に賭ける
マイムとOT、二つの顔



LETS CHALLENGE

片手で やってみよう

1



どうやって ● しぼるの

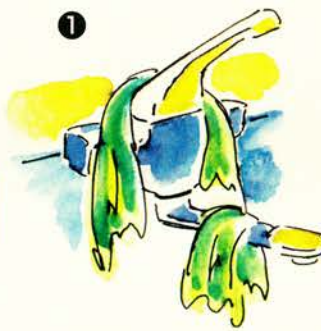
■右の図のように、片手で布きんを握ることもひとつの方法ですが、きつくしぼることはできません。振りまわして水を切る……これでは自分もまわりも水びたし。片手でしっかりしぼる……どうしてなかなか手ごわいものです。



ここからチャレンジ! さあ、やってみよう!



2 かけたまましぼる
布きんを蛇口のほうから徐々にねじこていき、最後に一気にしぼります。



1 布きんをかける
布きんを蛇口付近(かける場所がなければアームの部分)にかけます。

そのほかにもこんな方法が……

力不足とか、もっときつくしぼりたい人には、次のような方法もあります。



●携帯用(小型)脱水器に入れ、脱水する



●布きんを洗濯機に入れ、脱水する

手を切るなどケガをした時、困った経験はありませんか? そんな時のちよつとしたアイデアを紹介します。

生活の中で、普段、私たちは何気なく両手でしぼっています。片手での途端にどうすればいいやら……あなたなら片手でどのようにしぼりますか?



【牛乳パックオープナー】

やっと開けたと思ったら、内側にはがれた紙がしっかりくっついていて……ときに相当手ごわいのが牛乳パックの注ぎ口。この牛乳パックオープナーを使えば、どんなに固いパックでもラクに開けられます。

¥3,000



思わず使ってみたくなる、快適生活を支援する用具たち

ふだん何気なくできていることが、障害をもつことで困難なものに変わる場合があります。障害者の生活を支援するアイデアいっぱいの福祉用具には、開発した人のひらめきとなにより愛情がこもっています。ここでは、だれでも思わず使ってみたくなる、そんな便利グッズを選んでみました。

アイデアいっぱいの福祉用具

【プルタブオープナー】

プルタブで指や爪を傷めたプルタブ恐怖症の人に朗報。バイキンがつきにくい抗菌加工、ワンタッチでどんな缶でもオープンです。¥350



【コルク栓抜き】

ワイン党にはコルクの数だけあるといわれる栓抜きの失敗……。このコルク栓抜きは、ボトルにかぶせてポンプ部を上下に動かすだけで、あら不思議、栓が抜けてしまう。栓抜き名人の出番なし、でどんなサイズのボトルにもフィットします。¥1,800





【ビンオープナー】

固いビンの蓋開けにはひと言ある人も、このビンオープナーには脱帽です。これ一つあればほとんどのサイズのビンの蓋をスムーズに開けられます。

¥3,000



【万能ハンドル】

あの固さを思うとついつい閉めるのがおっくうになるのが、ガス・水道などのコック類。この万能ハンドルはコックに当てると、当たった部分だけへこんでがっちりグリップする仕組み。軽い力で回せます。これでコックの開閉もラクラクと。

¥3,000



生活支援のアイディ



【ペットボトルオープナー】

口径が小さいリングでロックされている、ペットボトルや栄養ドリンクのキャップ。このペットボトルオープナーを使えばキャップをしっかり固定し楽に開けられます。

¥400



【缶切り】

缶の縁に本体の刃をはさみこみ、ノブを回すと缶のふたがきれいにカットされます。回す動作がむずかしいという人にも、大形の半円形のノブを手のひらで押して回すこともできます。

¥3,500



【携帯用オープナー】

一台三役の働きものが、この携帯用オープナー。まず缶ジュース・ビール等でおなじみのプルタブ起こし。次にペットボトルのキャップ開け。キャップの大小に合わせての二段設計もうれしい配慮です。最後に栓抜き。携帯に便利な折りたたみ式なので、アウトドアライフのお供に最適です。¥900



チベット仏教医学と 精神科作業療法

チベットの仏教医学といえは、何だかオウム真理教みたいでうさん臭い、と思われるかも知れないがこれはそんな話ではない。

チベットにはインドからアユルベーダ医学とママ教文化が混合した独自の医学体系が今日でも生きている。代表医学書である『ギュージー』は、八世紀ごろまでさかのぼるのであるが、その中で精神医学は大きな位置を占めている。その中では、すでに分裂病に相当する風・粘液・胆汁の三つによっておきる狂気というのがちゃんと言われている。中でも粘液によっておきた「狂気」というのは、精神分裂病・緊張型・自閉的といつに相当するのだといつが、粘液の過剰によって病気になる者は、完全に自閉的で黙り込み、非行動的で、無愛想である」とされている。そして、治療としては、「彼を動かすためには愛情に満ちた治療を行うしかない。彼は機会あるごとににか活動をさせるようにしなければならぬ。マッサージはたとえ受動的なものであつても、身体に「動き」を与えるし、熱を生み出すので「粘液は「冷」と考えられている」有効である。温かい言葉も必要である。食も粘液を拮抗するものでなければ

ばならないし、薬草も有効である。」といつのであるから、何だかこれは作業療法と薬物療法、食事療法を統合した精神障害の治療体系ではないかと驚かされるのは誰しもであらう。つまり現代精神医療は古代チベット医学の知恵を再発見しただけなのだといつて言えないこともない。それは薬物療法でさえそうであり、現代精神科薬物療法の源流のつは一九五二年、ハキムが古代インド医学のアユルベーダ体系の中で狂気に対する処方として用いられていたローウオルフイア・セルペンチナ(印度蛇木)の作用を再発見したために始まるものである。

近代精神医学の中で、作業療法が導入されてから半世紀以上経つ。しかし、この場合、欠けていたのは、「温かいことば」の要素かも知れない。それはE・クレッチマー(「精神療法」一九四九年)のような人でさえ、「作業療法」の目的は少数の天才と多数の労働機械を作り出すところにある」と言っているところに示されている。H・シモン(一九二七年)やクレッチマーが仕事をした頃の欧米、とくにドイツの社会では、人間の集団生活のモデルは、兵営それもフロイセンの軍隊だつたから、精神病院も軍隊

式になり、精神分裂病欠陥状態の患者さんの常動性をむしろ利用して従順な労働機械をつくるというよつなこつになつたのかも知れない。SST(ソーシャル・スキル訓練)と呼ばれるこつになつても、適応といつことが余り強調されると、「温かい言葉」が抜けてしまふ。精神分裂病の場合だけでなく高齢者相手の場合でも、つい相手を子供扱いしてしまひ、相手の人間としての威厳を保たせるこつを忘れてしまふ。

そして、人間としての威厳といつのは何よりも「自分が誰かの役に立つてきた、これからも立つ」といつ意識に支えられている。病者にとつての「温かい言葉」は、その意識を叶えてあげる言葉であつて、それは一人一人の尊厳(仏教医学では「仏性」といふ)があるこつを認めるこつから来る。

チベット医学なんてこつでもなく古い話なのであるが、私たちはチベットのラマ医師に叱られるよつなこつをやつているこつもありうるのである。つまり、おためごかしや日常の忙しさにとりまぎれて、つい、「温かい言葉」を忘れて、病者やお年寄りを「生活訓練」や「作業療法」に追い立てる、といつこつをやつていないであらうか。



小田 晋さん

昭和8年(1933年)大阪府生まれ
岡山大学医学部、東京医科歯科大学大学院(神経精神医学専攻)卒業。筑波大学社会医学系教授。平成9年3月退官、名誉教授。同年4月より国際医療福祉大学保健学部教授。医学博士。
専攻は社会精神病理学及び犯罪学。宗教や犯罪など、様々な社会現象と精神病理学との関係を追求している。
著書 「狂気の構造」「現代人の精神病理」「精神変容のドラマ」(以上青土社)、「東洋の狂気誌」「日本の狂気誌」(以上思索社)、「暮らしの心理学」(日本教文社)、「心の時代とメンタルヘルス」(ぎょうせい)、「世紀末日本」の精神病理」(文芸春秋)、「モーツァルトの目玉焼」「人はなぜ、狂うのか」「人はなぜ、人を殺すのか」(はまの出版)、「神戸小学生殺害事件の心理分析」(光文社)など多数。

Profile



私たちと共にあゆみましょう。

日本作業療法士協会会長 寺山 久美子

「作業療法士は日本では知名度の低い職業」という認識が、私たち関係者には強くあります。

日本人の高齢化が叫ばれる今日、「健康寿命を延ばし、いきいきと生きる」ことは全ての人々の願いです。作業活動を専門的に介護予防や障害の回復のために応用することを仕事とする作業療法士をより多く活用していただきたく、「国際高齢者年」を期して、広報誌を定期的に発行することにしました。「作業療法士はみなさまのもの」です。

(社)日本作業療法士協会 国際高齢者年キャッチコピー

作業療法士の技術と心で応えます あなたの豊かな生活を



社団法人

日本作業療法士協会

JAPANESE ASSOCIATION OF OCCUPATIONAL THERAPISTS

事務局／東京都台東区寿1-5-9 盛光伸光ビル
TEL:03(5826)7871 FAX:03(5826)7872

Opera

(社)日本作業療法士協会が発行するPR誌Operaは、ラテン語で「作業」を意味します。明るい語感にふさわしく、作業療法周辺の面白くてためになる読み物・インタビューによる親しみやすい誌面づくりをめざします。

広報部

1-9911-30